

個人事業者等に対する安全衛生対策 のあり方に関する検討会 ヒアリング資料

2022年10月31日

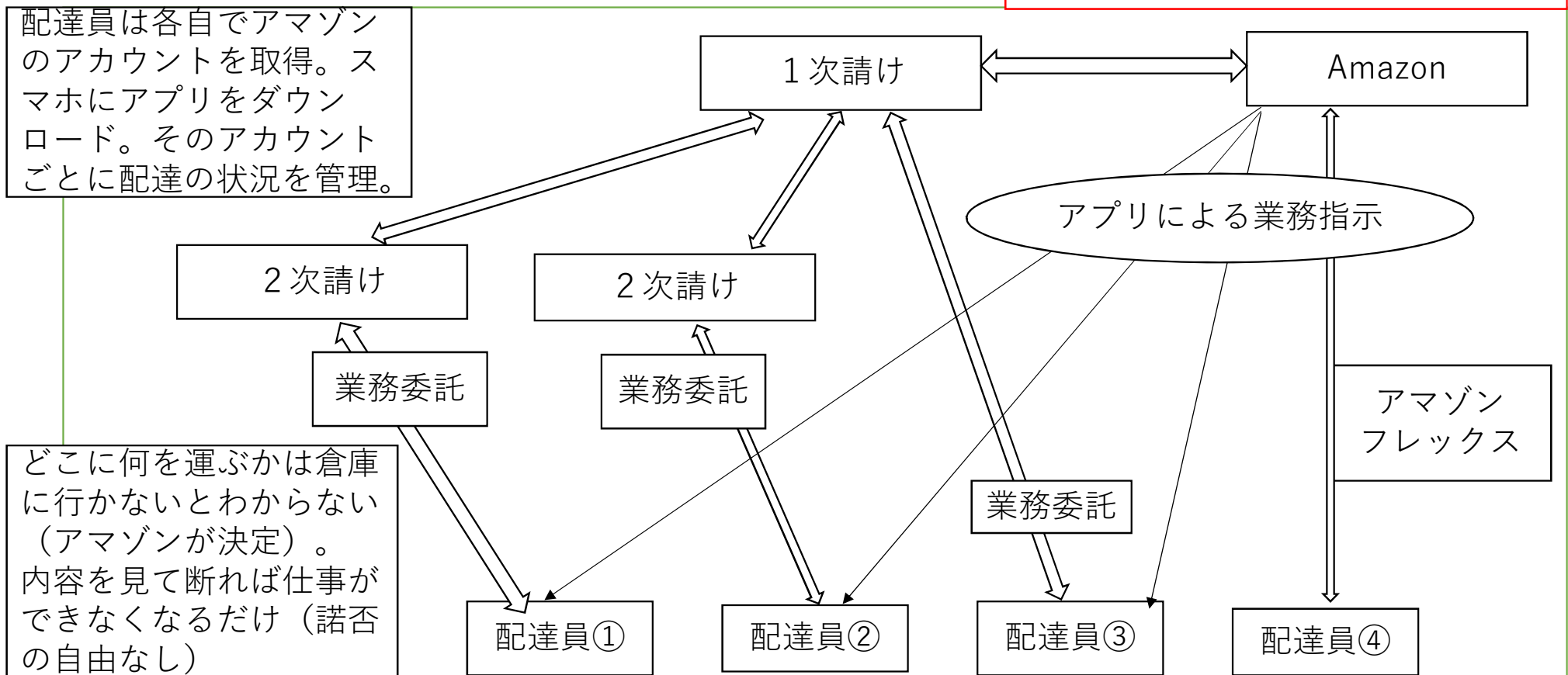
全国ユニオン 事務局長 関口達矢

はじめに：全国ユニオンとは

- 全国コミュニティ・ユニオン連合会（以下「全国ユニオン」）は、労働相談を軸に活動する個人加盟の労働組合の連合体です。2022年7月現在で12組織（うちオブザーバー加盟1組織）、約2800人が加入しています。
- 個別紛争を抱えて相談に訪れて、団体交渉を経て解決していく、いわゆる「個別紛争型」に加えて、職場内で複数名が加入していわゆる企業内組合と同じように労使関係を継続するケースもあります。
- しかし、加入が個人加盟であるがゆえ組合員が勤務する企業の業種・業態・規模は千差万別です。また、数千人の企業で組合員は一人だけであったり、100人程度で管理職以外は組合に加入していたりと加入の状況も様々です。特に東海地域では外国人労働者が多く加入しています。
- 全国ユニオンは結成当初より、雇用形態の如何を問わず「あらゆる働き方の労働者に権利を」と訴え続け、①非正規労働者の組織化を進め、一人でも生活できる賃金、人権の確立に向け奮闘する、②雇用形態の違いによる差別、著しく拡大している賃金・労働条件の格差を禁止する均等待遇の実現と、合理的・客観的理由のない有期雇用の禁止を求め、立法化の闘いに取り組む、としてきました。
- このように非正規問題をいわば活動の真ん中に置いて取り組んできたことと、労働相談を軸に活動を行ってきたことが相まって、非正規労働者や外国人労働者、さらには個人事業主からの相談も日常的に寄せられています。
- こうした中で、「個人事業主」とされているアマゾン配達員の組合づくりに携わることになりました。今回はアマゾン配達員を中心に、個人事業主とされているその他のドライバーやプラットフォームにも若干触れながら報告をさせていただきます。

1. アマゾン配達員の仕組み

最終消費者に荷物を届けるいわゆる
ラストワンマイルのドライバー



2. 荷量増加の背景（横須賀）

～2020年 1個170円（横須賀）×配達個数 80～90
個以上多くても150個程度

「アマゾンがAIを導入する。配達の効率も上がる。1日1200個程度になる。日当にしたほうが得だ」などといわれて日当（1万8000円）に変更。2019年ごろから稼働した倉庫は初めから日当。

2021年～ 荷量が増加。1日2000個を超えることが常態化。

「これほど増えるとは思わなかった。半年以上前からアマゾンと協議している」（会社担当者）



配達員Aさん（女性）



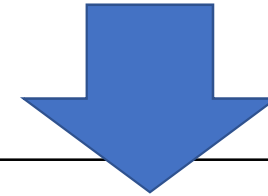
配達員Bさん（男性）

3. ダミー コードによる 長時間労働の 容認

- アマゾンでは配達時間を1週間60時間以下にするように下請けに指示
- しかし、荷量が増加すれば週60時間を守れない。週5日の就労を予定している配達員も週4日になってしまう。

下請→配達員を確保したい

配達員→日当なので、就労日を確保したい。



週60時間に達していない他の配達員のアカウント、あるいは退職した配達員をアマゾンに報告せず（アカウントを返上せず）に退職した配達員のアカウントを使用することで週60時間を超えて就労させている。

- アマゾンには各自のアカウントごとに誰が何を運んでいるのか、何時から何時まで配達しているのか、どのような配達ルートなのか、だけではなく事故の履歴などを確認。

アマゾンも黙認している
のではないか？
または実態を把握する
意向がない？

本日の出勤時間です。

エリア表で自身が【A・B】のどちらのグループかを必ず確認の上、出勤をお願いします。

● 出勤時間を2回に分けて行いますので時間内に必ず出庫して下さい。あとが詰まり迷惑になるのでお願いします。

● コードが自分のコードではない方が数名いるので、必ず確認をして割り当てられた別の人のコードでサインインしてください。

● サインインする際は必ず事務所に来た時にサインインしてください。必ず守るようにお願い致します

【Aグループ】 （出勤）8：10 （出庫）8：35

【Bグループ】 （出勤）8：40 （出庫）9：05

確認をお願いします。

アマゾン配達員過重労働の実態——

退職者のID使用証言も

宅配の現場で、長時間労働を隠蔽するような行為が行われていた。その実態を、配達員が証言した。

▼1面参照

複数相談 他の運送会社から

「他人のID使用は『ダミー』と呼び、当たり前のように使われていた」。神奈川県内のアマゾンの2次下請けの会社と2020年1月に業務委託契約を結び、配送を担う40代の男性配達員は話す。

男性によると、この会社では、倉庫の壁に配達員の名前やバーコードが一覧になって貼られ、元請け会社が用意したスキャナーで自分のバーコードを読み込んで仕事を始めることになっている。金曜や土曜になると、他人の名前が書かれた付箋が貼られることがあり、そのIDを使って仕事をすることになった。元請け会社の担当者が来て、手配していたという。

使われるのは、週60時間に達していない配達員や、退職などで契約関係がなくなった人のID。アマゾンのセール期間「ブラックフライデー」などの繁忙期に

指示されていたという。

男性の場合、1日13時間ほど働き、今年3月の平均労働時間は週に66時間ほど。仕事はアマゾンからアプリを通じて指示されるが、この1年ほどで荷物量が増え、週の後半になると、残りの労働時間が足りなくなる人が多いという。

男性が加入する「アマゾン配達員組合」横須賀支部は6月、アマゾンジャパンと元請けの運送会社、その下請け2社に対して要求書を提出。「個人情報保護法に照らしても重大なコンプライアンス違反であり、過重労働や長時間の運転を隠蔽するための悪質な違法行為」として、他人の個人IDの使用の中止を求めた。

アマゾンに対しては、全国的に実態を調査して結果を

公表し、違法状態を是正するよう求めた。

組合によると、元請けの運送会社は8月22日付の組合への回答書で、「週末に配送業務を遂行して頂ける配達員の人員が不足することが予想される場合や繁忙期になどに、ダミーコードの使用を求めていた、という実態を確認した」と認めた。この会社と下請けの運送会社では、要求書を出した後に他人のIDの使用は停止されているという。

ただ組合には、関東や九州地方の他の運送会社で働く配達員からも、同様の相談が複数寄せられている。

神奈川県内の30代女性の場合、運送会社の管理者から個人事業主の配達員が入る50人ほどのグループLINEを通じて、他人の名前とパスワードが送られ、それを使ってログインして働いているという。「荷物量から考えると規定時間内に配り終えられないので、ダミー利用は当たり前。労務管理は形だけです」と話した。

（4）他人の個人コードの使用の中止
他人の個人コードを使用して配達させることは直ちに中止されたい。
アマゾンのセール期間「ブラックフライデー」などの繁忙期をはじめ、組合員に至っては2021年8月に就業を始めてから10カ月間、他人の個人コードの使用は、個人情報保護法に照らして過重労働・長時間の自動車運転に相当する行為が認められる。

アマゾン配達員組合が6月に提出した要求書



































「労働時間に見合う荷物発注を」識者

ネット通販の拡大で、宅配現場は多忙さを増している。ヤマト運輸など大手は、労働者を保護する観点から荷物の総量規制にふみきり、その分を個人事業主のドライバーたちが担ってきた。個人事業主は、雇用されていないため「労働者」として労働法上の保護の対象にならないことも多い。宅配業界は多重下請け構造で、今回の場合、配達員たちとアマゾンとの間に直接の契約関係はないが、責任は問えるのか。

労組は、配達員たちがアマゾンのアプリを通じて荷物の量や配達先、労働時間を管理されているとして、「実態は労働者。アマゾン側は団体交渉などに応じるべきだ」と主張している。

労働法務に詳しい法政大の沼田雅之教授は「アマゾンとは直接の契約関係はなくても、アプリなどを通じて仕事を指示しているのであれば、使用者としての責任があると考えられる。労働時間の上限を60時間と定めているのであれば、それに見合った荷物の発注をするなどの対応が求められるのではないか」と指摘する。

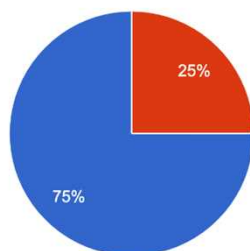
（片田貴也）

CX1	A	52			CX18	B	76		
CX2	A	62			CX19	A	92		
CX3	B	65			CX20	A	86		
CX4	A	72			CX21	B	105		
CX5	A	62			CX22	A	106		
CX6	A	60			CX23	A	85		
CX7	A	58			CX24	A	97		
CX8	A	77			CX25	B	95		
CX9	A	70			CX26	B	102		
CX10	A	63			CX27	B	90		
CX11	A	76			CX28	B	105		
CX12	B	60			CX29	B	85		
CX13	B	74			CX30	B	130		
CX14	B	72			CX31	B	93		
CX15	B	76			CX32	B	115		
CX16	A	76			CX33	B	63		
CX17	A	78				B	CX30 分割		

ダミーコード使用に関するアンケート結果

他人コードを使用したことがありますか？

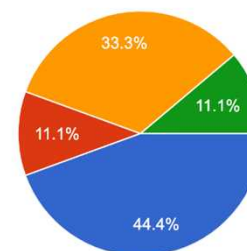
12 件の回答



- ある
- ない

他人コードの使用頻度は？

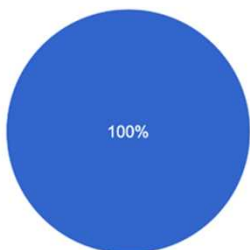
9 件の回答



- 毎週のように使用している
- 2週に1回程度である
- 月に1回程度である
- 月に1回程度もない

使用する他人コードはどのように決まりますか？

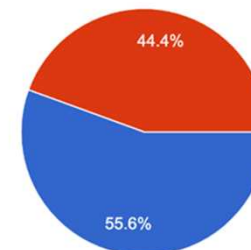
9 件の回答



- センターの管理者が、使用すべき「他人コード」をその都度指定する
- 管理者が示した使用可能な「他人コード」の中から自分で選んでいる

他人コードの使用は現在も続いていますか？（回答時）

9 件の回答



- 続いている
- 是正された

3. 事故事例

- ・横須賀配達員

配達先のポストに投函して階段を下るときに足を滑らせて転落。背中を強打して救急搬送。腰の骨の骨折、打ち身などで治療中（写真）。

- ・アマゾンフレックス

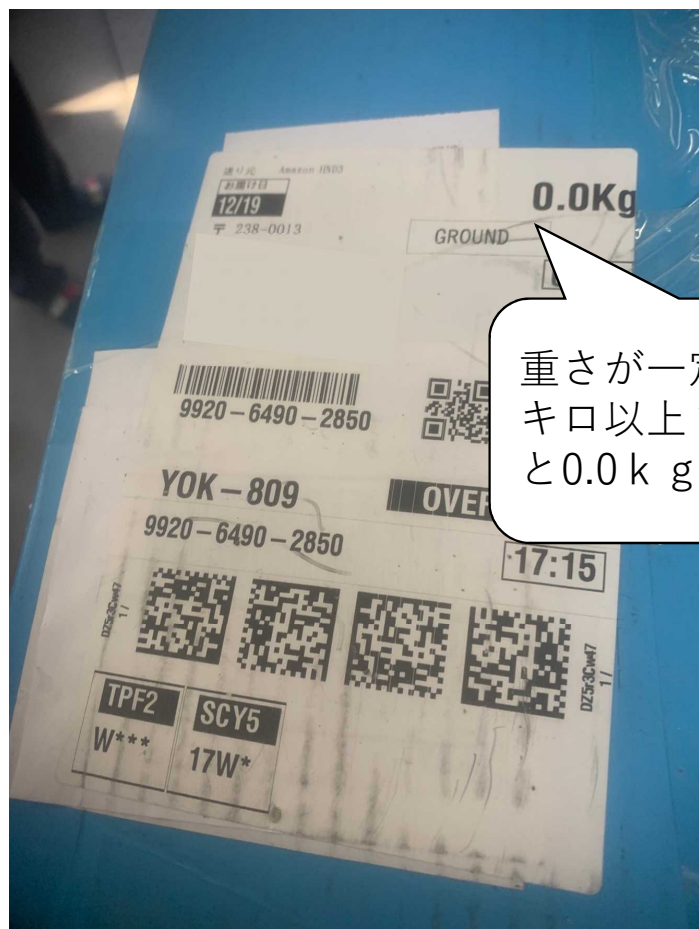
雨天での配達のために荷物を持ってガードレールを跨ごうとして股下を裂傷し転倒。傷口から雑菌が入るなどして重傷化。

- ・アマゾンフレックス

畑道から幹線道路へ出ようとして事故（クルマ同士）。鞭打ち。頸椎捻挫。手が上がらなくなった。

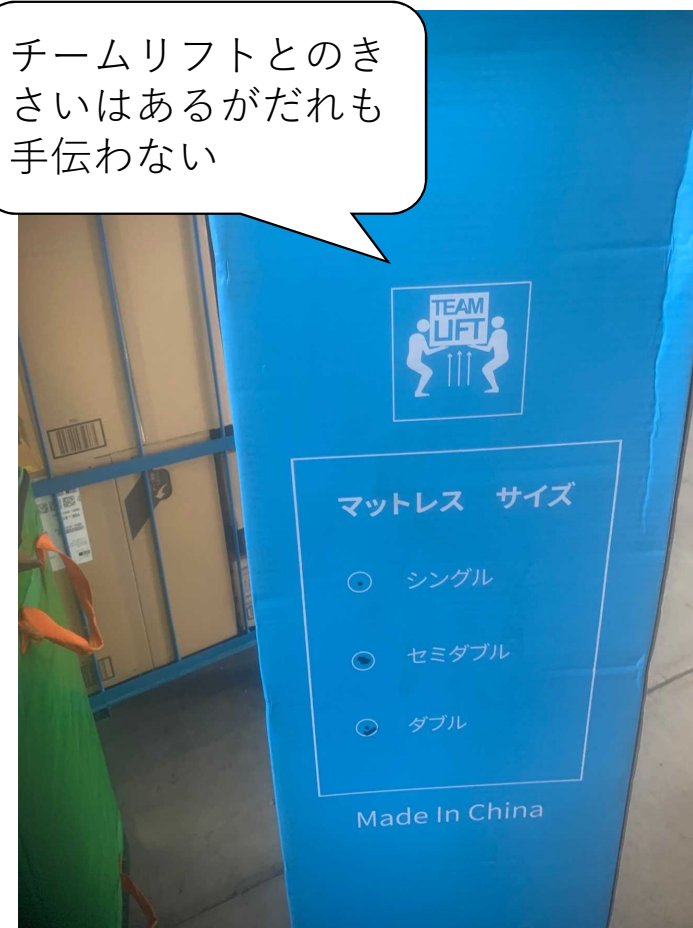


4. 重量物の表示等



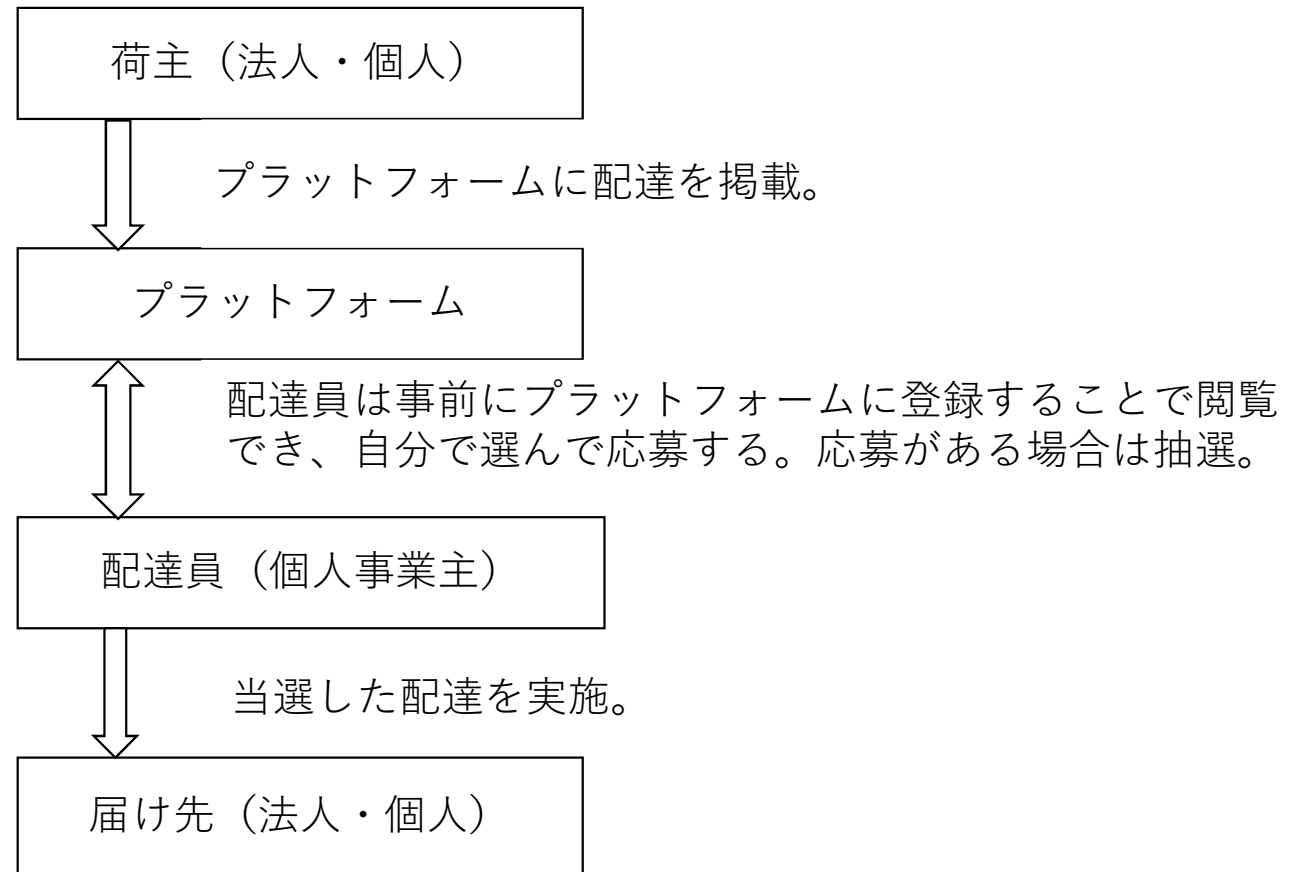
重さが一定以上（25
キロ以上？）になると
0.0 k g で表示

チームリフトとのき
さいはあるがだれも
手伝わない




5. その他のプラットフォーム

1か月くらい先の配達の応募も可能だが、自分が望む日時・報酬の仕事がとれる保証はない（いわゆる「おいしい仕事」は簡単にはとれない）。
当選した仕事をキャンセルすることでペナルティもあるので、体調が悪くても無理をして配達することも。
荷主が個人であればアルコールチェックなどは実施できない。



6. 課題

- ・ 自動車運転手の改善基準の改正によって個人請負ドライバーに仕事が流れるのではないか？
- ・ E C の拡大で荷量が急激に増加。適正な荷量こそ最大の安全対策
- ・ 安易に配達できる自動車を増加させることは不慣れなドライバーの増加につながり、事故増の懸念。
- ・ また、現状はアルコールチェックでさえ徹底されていない。

- 
- プラットフォーマーとしての責任を明確にすべき
 - 配達員の職場は「一般の道路」。「死人がでなければ変わらない」（アマゾン）。
 - 実態は雇用であるにもかかわらず、委託契約を偽装していると思われるケースも多い。
 - 「労働者」として保護すべき対象は適切に保護し、明確に個人事業主として位置づけられる場合には個人事業主として保護をしていくことが重要。
- 